

会 議 結 果 報 告 書

令和元年12月16日

会議の名称	令和元年度第5回志木市地域福祉推進委員会
開催日時	令和元年12月16日（月）9時30分～11時30分
開催場所	志木市役所 3階会議室
出席委員	菱沼幹男委員長、竹前榮二副委員長、 八木由子委員、村山宏委員、塩沢夕起子委員、小澤静枝委員、 清水裕司委員、中村勝義委員、倉持香苗委員、柴崎英雄委員 山崎誠司委員、吉田かほる委員、安部卯内委員 <p style="text-align: right;">（計 13人）</p>
欠席委員	<p style="text-align: right;">（計 0人）</p>
議 事	(1) 第4期志木市地域福祉計画に対する意見公募の結果について (2) 今後のスケジュールについて (3) その他
結 果	以下審議内容のとおり。 <p style="text-align: right;">（傍聴者 0人）</p>
事 務 局	福祉課 塩盛課長、安井主幹、竹ノ谷主事 長寿応援課 吉田主席、黒澤主幹 志木市社会福祉協議会事務局 長谷川次長、川嶋主事 株式会社創建 高橋
署 名	(委員長)菱沼 幹男..... (署名人)安部 卯内..... (署名人)小澤 静枝..... 原本議事録には署名あり

審議内容の記録（審議経過、結論等）

- 1 開会
※資料の確認
- 2 委員長あいさつ
- 3 議題
- 4 閉会

【議事の結果】

- (1) 第4期志木市地域福祉計画に対する意見公募の結果について

（福祉課より説明）

委員長：No. 1について、概要版の作成、コラムや説明付きの写真、イラストなどの掲載により、わかりやすくするという旨を記載した方が良い。

副委員長：No. 2について、市民会館の1階ロビーのフリースペースは今でも苦情が出ているため、議会でも指摘が入るのではないかと。

委員長：意見に対する回答となっていないのではないかと。

委員：フリースペースの利用ということではなく、「活動を支援する」のように広義に捉えられる内容に修正した方が良い。

委員：No. 3について、第7期介護保険事業計画で充実しているのであれば、この回答で良いと考える。

委員長：上位計画だから取り上げないという理由ではなく、地域福祉計画でも施策レベルでは取り上げているが、具体的な事業は個別計画に記載するという内容に修正してはどうか。地域福祉計画でも取り上げているという旨を記載した方が良い。また、ケアラーは親も入っているのではないかと。

副委員長：No. 4について、地域福祉計画は数値目標が立てにくいという考え方を示した方が良い。ただ、重点的な取組では数値目標を掲げているので、その旨は記載しても良いのではないかと。それから、進捗管理は重点的な取組だけではないと思う。全体的に進捗管理を行うことがわかるように記載した方が良い。

委員長：No. 6について、わかりにくいと考えられる部分を教えていただきたい。用語説明などを用いてわかりやすくしていきたいと考えている。

委員：コラムや説明付きの写真、イラストなどの掲載により、わかりやすく改善すれば良いのではないかと。

委員長：大幅な加筆・修正は難しいだろうが、余白があるページで用語解説を載せられると良いだろう。

委員長：No. 6について、「障がい者や高齢者等にも配慮した計画」とあるが、SPコードを挿入する予定であれば、その旨は記載した方が良い。わかりやすい概要版を作成するという旨で示すと良いだろう。

委員長：No. 7について、自助という趣旨が強調されても良いのではないかという意見であった。素案のP37に関連する内容が掲載されている。市民の学習機会を設けたりすることなども含めて回答を修正すると良いのではないか。

事務局（福祉課）：成年後見制度利用の内容と混在しているため、回答がわかりにくくなってしまっている。地域福祉計画と成年後見制度利用の内容とを分けて考えると良いだろうか。

副委員長：「若年層」という文言を削除してはいかがか。必要な人に対して制度理解を進めていくべきなので、若年層に限定しなくても良いだろう。

委員長：学習の機会を設けることと、必要な人に対して支援していくという方向性で修正すると良いのではないか。

委員長：No. 11について、関係者の声を聞きながら整備する旨を記載してあげると良いだろう。市の考え方をわかりやすく説明した方が良い。基幹福祉相談センターは高齢者や障がい者に関する相談機能をバックアップしていく機能があることを記載してあげると良いだろう。

委員長：No. 12について、どのように修正していくのか。

事務局（長寿応援課）：P38の「要援護高齢者等支援ネットワーク会議・ホッとあんしん見守りシステム事業」について、5行目以降をもう少しわかりやすく修正する予定である。

委員：意見にある40から64歳の第2号被保険者の部分の回答はないのか。対象となっていないのであれば、事実を記載した方が良いだろう。

事務局（長寿応援課）：見直しを図ることも含めて、記載するように留意する。

委員長：No. 13について、対象を広げてほしいという趣旨の意見と思う。

委員：No. 12～14については、明記の要望がある中で、本日の会議で修正方針を示していただきたい。

委員長：別途、修正したものを委員に送っていただくと良いのではないか。また、修正するのであれば、市の考え方を示してあげた方が良い。

委員：若年性認知症や高次脳機能障害となった人に対する支援もしていくことになるだろう。

事務局（福祉課）：素案を修正する内容の部分は改めてみなさんに共有させていただきたい。

委員長：1月に庁議があるので、事前に委員に共有していただければと思う。

委員長：No. 15について、この回答は特に修正する必要はないと考える。

委員：「社会を明るくする運動」とは、毎年7月に、犯罪者に対する更生における理解を市民に呼びかける取組である。

委員：強化月間として7月に行っていることを明記した方がわかりやすいのではないか。

委員長：写真などがあれば掲載していただいた方が、イメージが伝わりやすいのではないか。

副委員長：P23にある脚注内容の一部を加えても良いのではないか。

委員：社会との接点を持つことが重要と考えている。

委員：市民目線で常に考えていくことが重要なため、わかりやすい内容に心がけていただきたい。

委員：何か説明会を設けるとか、フォーラムなどで説明する機会を検討していけると良いので

はないか。

委員：「社会を明るくする運動」について7月にキャンペーンを行っていることを特別ここで記載しなくても良いと考えている。ここを記載すると、他の記述内容にも影響してしまうので、記載変更をしなくても良いのではないか。

委員：資料1の33件について、前回と比べた所感を教えていただきたい。市民の声を聞いたことは大前提だが、市の考え方を伝えることのできる良い機会なので活用できると良いのではないか。

委員：前は0件であった。幅広い年代層の市民と関係団体から意見が届いた。

委員：計画書の内容について、コラムなどを交えてわかりやすくなると良いと考えている。

委員：タイトルの「地域福祉関連コラム」というのが適切かどうかは検討いただきたい。

委員：計画書を作成しただけでは見てもらえないと思うので、報告会のような場を設けて説明できると良いのではないか。

委員：フレイルの予防に力を入れていただきたいと考えている。

委員：成年後見制度について若者も勉強していただきたいと考えている。P46の写真には、説明を加えていただきたい。

委員：行政が介入する前に、地域で手を差し伸べる動きが図れる状態が望ましいのではないか。

委員：一般市民にとって計画書は馴染みのないものである。なるべくわかりやすい用語で情報を発信していただきたい。

委員：意見公募について、公表するものであれば市の考え方を明確に示していただければと考える。期待に添えない場合は、今後検討しますという記載を入れても良いのではないか。わかりにくい用語については、p67のような簡略的な説明があると良いのではないか。また、概要版について、大人版と子ども版で分けたり、イラストや漫画などで工夫しているところもあるので、わかりやすく作成していただきたい。

副委員長：福祉の分野では具体的にPDCAを回していくことが難しいと考えている。また、自分事としての関心が薄くなってしまう人が多い。今後、計画を推進していく上で、区の施設などで理解を深める取組を行っていけると良いのではないか。

(2) 今後のスケジュールについて

(福祉課より説明)

(3) その他

委員：ユニバーサルデザインについて、この言葉はすぐにわかるのか。

委員：一般的に浸透している用語だと思うので、説明する必要はないのではないか。

委員長：専門職の立場だと理解できる言葉でも、一般の人にはわからないことが多い。カタカナではなく、できるだけ日本語で説明していただきたい。

委員：若い人と高齢者の両方に配慮していただく必要があるだろう。

以上